

支 部 名 福島支部 会員数 (1,720) 名

支 部 長 名 矢館清孝 T E L 024-557-8443 (自宅 福島市北沢又字川寒8-1)
事務局長名 佐藤亮治 T E L 024-534-0121 (福島市立福島第二小学校長)
事務局住所 〒960-8107 福島市浜田町2-1 (福島市立福島第二小学校)

本支部は、現在現職（学校等）会員と、一般会員（84方部）を合わせて1,720名の組織となっています。
本支部には、支部長以下、副支部長5名、監事3名、理事6名、事務局長1名、事務局次長3名、幹事3名を
おいて、各方部の評議員及び会員と力を合わせて活動しています。活動内容は吾峰会本部との連絡調整、会報の送
付、支部事務局だよりの発行や支部会員名簿の作成、研修会の開催、慶弔関係事務などです。

平成30年度4月から令和元年度9月までの本支部の主な事業をお知らせします。

平成30年度

- 4月13日（金） 29年度退職者確認・名簿作成作業等（会場：福島第二小学校）
- 5月9日（水） 第1回事務局会 昨年度・本年度の支部事業・会計等の確認
（会場：福島第二小学校）
- 6月4日（月） 第1回理事会 支部評議員会・研修会の準備・丁合
（会場：福島第二小学校）
- 6月16日（土） 支部評議員会・支部研修会・懇親会（会場：杉妻会館）
- 7月24日（火） 名簿提出、会費納入締め切り
- 7月25日（水） 第2回事務局会 県大会について（会場：福島第二小学校）
- 9月14日（金） 第2回理事会 第3回事務局会 「吾峰」141号、支部事務局だ
より18号発送作業と県大会の参加について
- 9月29日（土） 同窓吾峰会会津大会参加12名（会津若松ワシントンホテル）
- 1月21日（月） 第4回事務局会 中止
- 2月21日（木） 第5回事務局会 事業報告・会計報告、事業・会計の計画等審議
（会場：福島第二小学校）
- 3月7日（木） 第3回理事会 会計監査 第6回事務局会（会場：福島第二小学校）

30年度の評議員会及び研修会の様子

評議員会



評議員会 1



評議員会 2

研修会（講演会 「戊辰戦争と福島」）



講演会 1



講演会 2

平成31・令和元年度

- 4月10日（水） 30年度末退職者確認・名簿作成作業等（会場：福島第二小学校）
- 5月9日（木） 第1回事務局会 評議員会・研修会について（会場：福島第二小学校）
- 6月3日（月） 第1回理事会 評議員会・研修会の準備 資料の丁合
（会場：福島第二小学校）
- 6月15日（土） 支部評議員会・支部研修会・懇親会（会場：杉妻会館）
- 7月25日（木） 第2回事務局会 県大会について（会場：福島第二小学校）
- 7月31日（水） 名簿提出、会費納入締切
- 9月13日（金） 第2回理事会 第3回事務局会 「吾峰」143号、支部事務局だより
19・20号発送作業と県大会の参加について（会場：福島第二小学校）
- 10月5日（土） 同窓吾峰会福島大会参加（会場：ウェディングエルティ）

令和元年度の評議員会及び研修会の様子

評議員会



評議員会 1



評議員会 2

研修会（講演会 「福島の新新聞報道」）



研修会 1



研修会 2

評議員会は、6月15日に杉妻会館で来賓、顧問、評議員、事務局員の総勢42名の参加で開催されました。物語会員への黙祷に始まり、来賓祝辞、協議、諸連絡の順序で行われ、例年通り順調に進行しました。

本年度の研修会は、今までの聴いたことのない新しいジャンルで、日頃から親しんでいる新聞について、演題「福島の新新聞報道」の講演会を開催しました。

講演は福島民報社論説委員幹事の川原田秀樹氏を講師にお願いし、福島民報新聞は、自由民権運動の高まりの中、明治25年に福島自由党の機関誌として創刊されたこと、民報新聞の歴史、新聞のできるまでの様子、新聞社の現状などについて、DVDを視聴や講話によって専門的な知識を得ることができました。

特に印象的だったのが、その日の新聞は幾版も印刷され、遠い配付地には午後9時頃までのニュースが刷られ、近い配付地には、深夜までのニュースまでが刷られる（第8版）など初めて知った貴重な知識となりました。今後は新聞の左上端にある班番号の数字を見てみたい意欲に駆られました。

その後会場を移しての懇親会は、白石允宏顧問の乾杯の発声に始まり、例年通り会員間の親睦を十分に深め、福大学生歌「今日の世紀に」を大内伸一事務局次長の指揮で斉唱し、次回の再会を期待し惜しまれながら閉会しました。

本年度も、事務局校を福島第二小学校、会計担当校を清水小学校として、事務局会と理事会を中心に支部運営に当たっています。

支部の各行事は、ほぼ例年通りの日程で計画どおりに実施しているところです。

本支部本年度の課題は、下記の通りです。

- 支部会員名簿の整備と支部会員への送付
- 評議員が不在の方部を今後どうするか
- 支部の評議員の高齢化に対する方策、評議員を方部会員からどうつないでゆくか
- 支部に入会していない会員をどう啓発するか

次ページに、当支部で年2回発行している「事務局だより」（第19号・第20号）を掲載いたします。

事務局だより

発行 福島大学人間発達文化学類
同窓吾峰会福島支部
発行責任者 矢館清孝
発行年月日 平成30年2月19日

平成30年度同窓吾峰会 会津若松大会報告

会津若松大会は平成30年9月27(土)、会津若松市の「ワシントンホテル」で開催され、福島支部からは、14名の会員(含む本部役員3名)で参加しました。その概要を報告いたします。

1 開会行事

会に先立ち、齋藤正寛前吾峰会長と遠原肇一元副会長(前双葉支部長)に感謝状の贈呈が行われ、湯野尻大会実行委員長の開会のことばの後、物故会員に対し黙祷し学生歌「今日の世紀に」を斉唱しました。千葉会長のあいさつでは、吾峰会創立130周年記念行事の終了報告と協力への感謝と賛助金へのお礼、前年度卒業生の就職動向、福大の現状では平成31年4月に開設される食農学類についての説明がありました。食農学類については、吾



開会行事中の会場



会長より前会長へ感謝状の贈呈

峰会からの寄付金を贈呈したことと会員へ賛助金協力依頼、また学生定員数の一部が本学類から充当され、本学類の学生が30名ほど減になることへの懸念などが話されました。会津若松市長(代)・朝賀学類長の来賓祝辞に続き会務報告・諸連絡で、峯島事務局長から賛助金現在の金額や研究奨励事業の変更等について説明がありました。最後に次期開催地区代表あいさつで矢館福島支部長より福島大会への紹介がありました。

2 講演

演題 「戊辰戦争を生きた会津の女性たち」 ～ 二人の八重～
講師 作家、エッセイスト 大石邦子氏

副題「二人の八重」は新島八重と井深八重のことです。両者の関連にも触れ、井深八重に焦点を当てた講演をいただきました。

井深八重は、同志社女学校卒業後、長崎高女の英語教師として赴任しましたが、2年目にライ病と診断され、御殿場の神山復生病院(隔離されたライ病院)に送られました。診断結果を知らされなかった八重は、患者達を見て自分の境遇に衝撃を受けます。しかし、同朋さえ見捨てた患者に献身的に尽くすレゼー神父の姿に心を打たれ、恩返しするために八重は懸命に働きます。

3年たっても病状が現れない八重は、誤診であったことが分かりますが、ハンセン病患者の看護に身を捧げようと決心し、看護婦の資格を取り、ハンセン病のため人生を捧げます。

昭和36年に「フローレンスナイチンゲル記章」を受賞、また、昭和50年には米タイム誌で「マザーテレサに続く日本の天使」と紹介されました。

戊辰戦争後、逆賊となった会津出身者への差別、ライ患者となった心情、誤診を知った後の患者への愛と決心などを大石氏独特の語り口で話し、会場に漂う感動はしばらく消えませんでした。



講演中の大石邦子氏

賀 寿 状 贈 呈

支部長から、次の3名の方々に賀寿状を贈呈しました。なお、蒲倉様には石幡清朗評議員も同行していただきました。皆様はとても明るく健康でした。



東海林百合子 様 (8月20日)

現在健康でお嫁さんとお孫さん一家の6人で一緒に楽しく過ごしています。



植田 英子 様 (9月23日)

飯館の小学校を初任に、福四小でご主人様と出会い、ご主人の校長承認に伴い福一小で退職され、その後町内会等地域の活動に尽力したことを上品に話されました。現在娘さんと元気に過ごしています。



蒲倉 芳子 様 (11月7日)

幼い子を母に頼み白河地区の小学校に単身赴任した教職時代の苦労や笹谷小学校で退職したことなどをお聞きしました。現在は、お嫁さんとお孫さんにかこまれ、書道を教えたり合唱サークルで活躍しています。

平成31年3月31日に小池登喜様の賀寿贈呈が予定されています。

同窓吾峰会研究奨励事業 入賞者審査結果

平成29年度

優秀賞 荒井小学校

「わかった、できた」と実感できる
算数科の授業の工夫
～活用力につながる基礎的・基本的な
知識及び技能の確かな定着をめざして～

平成30年度

福島第二小学校

「自分の考えを表現できる子供の
育成を目指して」

宗川 孝

「国際人の育成を目指す実践研究(その1)」
～日中関係を改善する国際人(中国人)
を育成する実践研究～

次年度も福島支部からの多くの応募を期待しております。

平成31年度「研修会のお知らせ」

今まで過去3年の研修会は、福大合唱部の合唱鑑賞、福大吹奏楽部の吹奏楽鑑賞、「戊申150年」にちなんだ歴史の講演会を順次開催してきました。次年度は、5月に講演会を予定しています。方部の評議員を通じてお申し込みください。

評議員不在の方部は、直接福島支部事務局の福島第二小学校 (Tel1534-0121大内教頭) にお申し込みください。

吾峰会「福島大会」のお知らせ

次年度の吾峰会大会は、福島市で開催されることになりました。

期日は、10月5日(土) 場所は、ウェディングエルティ2階です。

研修会は、福大特任教授の渡邊明氏による気象学関係の講演を予定しています。

詳細については、次号(第20号)でお知らせいたします。

事務局だより

発行 福島大学人間発達文化学類
同窓吾峰会福島支部
発行責任者 矢館 清孝
発行年月日 令和元年8月18日

支部からのお知らせ

吾峰会福島支部長 矢館 清孝

本年度も会員の皆様のご協力のおかげで、支部運営が順調に執り行われていることに、心より感謝いたします。

支部の会員は、現職者も含めて1,720名で、今年3月の退職者（各方部新入予定者）は28名です。評議員の皆様には勧誘をお願いしたところです。

評議員不在方部の会員の皆様には、会費の振込などご迷惑をかけています。その通知や「事務局だより」・会報「吾峰」の直接送付については費用が増大しているところです。経費削減と業務の能率化にご理解を頂き、評議員不在方部の皆様は、ぜひ評議員を希望されて事務局までご一報くださるようお願いいたします。

今年度の評議員会は、6月15日に開催され、研修会は、日頃親しんでいる新聞の報道に関する講演会を行いました。本年度は役員改選がありませんが、現職者の転退職により副支部長に福士久子（笹谷小）、事務局長に佐藤亮治（福二小）、事務局次長に須佐

好宏（福田小）、幹事に佐藤栄治（鳥川小）、丹野隆明（福二中）、長谷川央樹（福二小）が承認されました。次に5月19日に開催されました吾峰会本部評議員会の概略をお知らせいたします。

- 1 報告事項
 - ・卒業生祝賀会の報告 卒業生224名 参加率65%
 - 2 協議事項（議長 伊達支部長）
 - ・事業報告・会計報告・事業計画・予算
 - ・会報143号 8月1日 144号 2月20日 発行
 - 「130文字の想い」を今年も会員に募集する。
 - ・研究奨励事業の昨年度本支部の福島第二小学校が優秀賞を受賞 本年度の支部締切 9月20日
 - ・各支部活動のインターネット更新依頼
 - 3 その他
 - ・福島大学校友会「福島大学ファミリー会」の設立について
 - ・情報交換 大崎、大河原、耶麻、安達の各支部
- 今年度は吾峰会福島大会が10月5日（土）ウェディングエルティで開催されます。参加されたい方は、事務局へご相談ください。

最後になりますが、皆様の本支部活動へのさらなるご協力をお願いいたします。

福島支部評議員会・研修会・懇親会報告

今年度の福島支部評議員会は、来賓の川俣町教育長佐久間裕晴様、福島市教委学校教育課長横山隆英様、同窓吾峰会会長千葉金之助様、顧問の齋藤正寛様、近藤博之様、白石允宏様、関場弘子様のご臨席のもと、評議員、事務局員を含め40名で、杉妻会館の牡丹Aにおいて開催しました。

会は佐藤亮治事務局長の進行で、物故会員への黙祷に始まり、支部長あいさつ、来賓祝辞、協議、諸連絡の順序で行われました。



評議員会の様子



佐久間裕晴川俣町教育長



千葉吾峰会会長

佐久間教育長の祝辞では、幼稚園・保育所から英語教育を行っていること、新学習指導要領が次年度小学校から順次実施されること、講師の不足、高校の普通科でも特色のある教育が必要など学校の現状について、千葉会長からは、本部の役員改選、福大卒業生の就職状況（教職者91名中正採用は68名）、入学者数、食農学類発足に伴う本学類の30名定員減、130周年記念事業の協賛金などについて述べられました。協議は、渋谷朗評議員を議長として順調に進められました。

研修会

演題 「福島の新聞報道」

講師 福島民報社論説委員幹事 川原田秀樹氏
(論説 あぶくま抄を執筆)

「新聞の歴史と現状」

講演のはじめに、民報新聞社紹介用DVDを視聴しました。内容は、民報社の歴史、新聞の作り方、民報社の現状などでした。特に作り方では、記者の原稿から完成・印刷まですべてコンピュータによってなされること。記者から提出された記事が幾度も校正をへて記事になり、編集された原稿を二本松にある新印刷センターで印刷し、各販売所に送られることが視覚的によく分かりました。

福島民報新聞は、自由民権運動の高まる中、明治25年、福島自由党の機関誌として平島松尾らが中心になり創刊されました。4頁の小さな誌面で8頁の付録付き、白黒で写真もなく文字だけの新聞だったそうです。購読料は20銭で、1,500部の発行でした。

創刊の辞には、「一略一 福島民報は、民権を横糸、民党の本旨を縦糸として立憲自治を進め、国の幸福や人民の利益を図る。県民の味方となり、社会国家の問題にも言及する。特に県内の問題について論究検討して進歩改良を目指す。誌面での体裁や軽薄派手な記事を競うようなことはしないし、求めもしない。ただ地道に地方誌としての特色を発揮していきたい。」と地方紙としての特色と並々ならぬ決意が述べられていました。

その後の民報社の主な歴史は、日清・日露戦争で発行部数が伸びたこと、日中戦争時統制で用紙が少なくなり記事を減らしたり夕刊をなくしたこと、昭和16年戦時下で1県1誌となり民報と民友が統合したこと、昭和35年栄町社屋の完成、昭和47年に戦後毎日新聞社に譲渡した経営権を戻したこと、



講演の様子

昭和52年現在地に社屋を完成したことなどです。今後も民報社は、公器としての使命貫徹と正確敏速な報道で、日本一の地方紙を作る社是のもと、詳しいデータや情報の提供、紙面を明るくし、県民の分断・対立を防ぎ、差別・偏見への反論などを心がけて、地域密着と読者に愛される新聞を目指すそうです。ところで、新聞は遠い配付地(いわき・南会津など)は早い時間に印刷され、近くの配付地(県北・福島)は遅い時間に印刷されるので(第8版)、遠い地区の新聞には午後9時頃までのニュースが載ります。福島市で深夜の最新ニュースが載る新聞を観られる私たちは幸せだと思いました。意義のある研修会でした。

懇親会

懇親会は、白石允宏顧問の乾杯のご発声で始まりしました。

参加した会員の皆様は積極的に相互の旧交を深め、多くの場所で、話が盛り上がりました。閉会前に大内伸一事務局次長の指揮で、学生歌「今日の世紀に」を元気に歌い、懐かしさの中で次回の再会を誓って会を閉じました。



懇親会の様子

賀寿状贈呈

今後は次の方に賀寿贈呈の予定となっています。

後 藤 守 様 (大正13年8月 3日)
鈴 木 健 一 様 (大正14年2月13日)
丑 込 ヨネ子 様 (大正14年5月 2日)
有 我 百 枝 様 (大正14年5月13日)

平成31年3月28日小池登喜様が賀寿贈呈されました。大崎孝一評議員が同行しました。



謹教小学校が初任で、竹槍の軍事訓練、校庭の畑作りが思い出され、結婚のため僅か5年で教員を辞し、警察官のご主人と転勤先を廻り、子供達を何度も転校させ苦勞をかけたそうです。現在、娘さんと一緒に、お話しが明確でとてもお元気でした。